



支援プログラム-家族支援、移行支援、地域支援

キネサポの感覚統合理論に基づいた支援アプローチを活かしながら、包括的な家族支援プログラムを作成いたします。

初期アセスメントについて： 支援開始時に行う包括的な評価プロセスです。まず、保護者との60-90分の個別面談を実施し、子どもの発達歴や現在の状況、家族の懸念事項について丁寧に聞き取ります。家族構成や生活環境の調査では、家庭での日課、住環境、地域との関わりなどの情報を収集し、支援に活かせる資源を把握します。子育てや発達に関する困りごとチェックリストを用いて、具体的な課題を明確化し、優先順位をつけていきます。感覚プロファイル評価では、家庭環境における子どもの感覚処理の特徴を評価し、適切な環境調整の手がかりを得ます。兄弟がいる場合は、兄弟関係評価も実施し、家族システム全体を考慮した支援計画を立案します。

定期アセスメントについて： 6ヶ月ごとに実施する継続的な評価プロセスです。支援の進捗確認では、設定した目標に対する達成度を評価し、支援方法の適切性を検討します。家族ニーズの変化の把握では、生活環境や家族関係の変化、新たに生じた課題などについて確認します。子どもの発達状況の共有では、発達検査や行動観察の結果を保護者と共有し、成長の過程を確認します。また、これらの評価を通じて新たな課題を特定し、支援計画の修正や新規目標の設定を行います。この定期的な見直しにより、効果的で継続的な支援を実現します。

具体的な支援内容について： 感覚統合理論Be-Youプログラムに基づく子育て支援では、月1回の「キネサポ式Be-Youプログラム講座」を通じて、各発達段階における感覚統合の重要性を学び、家庭でできる具体的な活動方法を習得します。保護者は日常生活での応用方法を学び、子どもの感覚処理特性に配慮した関わりができるようになります。個別相談支援では、月1回の定期相談に加え、必要に応じて随時相談にも対応し、オンラインシステムも活用して柔軟な支援を提供します。

ペアレントトレーニングプログラムでは、基礎コースと応用コースを通じて、段階的に支援スキルを習得します。基礎コースでは感覚統合の基礎知識から始まり、子どもの行動観察法、環境設定、効果的な声かけまでを学びます。応用コースでは個別の課題への対応力を高め、問題解決スキルや家族間のコミュニケーションの改善を目指します。

レスパイトケア支援は、保護者の休息確保を目的とした一時預かりサービスを平日9時から17時まで提供します。また、月2回の休日預かりプログラムや緊急時対応システムを整備し、保護者の心身の健康維持をサポートします。兄弟支援では、月1回のグループ活動や個別カウンセリングを通じて、兄弟児の心理的支援を行い、家族関係の調整も支援します。

保護者交流支援では、月2回の茶話会やテーマ別グループミーティングを開催し、保護者同士の交流や情報交換の場を提供します。オンラインコミュニティも運営し、時間や場所の制約なく相談や交流ができる環境を整えています。

情報提供・啓発活動として、季刊ニュースレターの発行やSNSでの情報発信を行い、最新の支援情報や実践例を共有します。地域の支援資源に関する情報提供や、定期的な研修会・講演会の開催を通じて、支援の質の向上と地域ネットワークの強化を図ります。

①子育て・発達に関する困りごとチェックリスト

基本的生活習慣に関する項目について、「食事について」では、偏食が顕著な場合、特定の食べ物しか受け付けない状態を指します。食事時間が必要以上にかかる場合は、集中力や咀嚼の問題が考えられます。食べる量が一定せず、極端に多かったり少なかったりする状態は、体調管理の面で注意が必要です。特定の食感に対する極端な拒否反応は、感覚の過敏さを示唆する可能性があります。

「睡眠について」では、寝つきの悪さは就寝前の活動や環境との関連が考えられます。夜中の頻繁な目覚めは、睡眠の質に影響を与え、日中の活動にも支障をきたす可能性があります。朝の起床困難は、生活リズムの乱れを示す重要なサインです。昼夜のリズムが安定しないことは、心身の発達に影響を与える可能性があります。

「排泄について」では、トイレトレーニングの進展が遅い場合、身体的な準備や心理的な要因を考慮する必要があります。失敗が多い場合は、タイミングの認識や身体感覚の問題が考えられます。トイレに行きたがらない様子は、トイレ環境への不安や恐れを示唆することがあります。便秘傾向は、食事内容や運動量との関連を検討する必要があります。

運動・活動面について、「粗大運動」では、頻繁な転倒は、バランス感覚や筋力の発達に課題がある可能性を示します。運動の不器用さは、協調運動の発達に関係します。バランスを取ることの難しさは、前庭感覚の発達と関連があります。年齢相応の運動ができない場合は、運動発達の遅れを示唆する可能性があります。

「微細運動」では、箸やスプーンの使用困難は、手先の巧緻性の発達に関わります。描画や文字を書くことの苦手さは、目と手の協調運動の課題を示すことがあります。ボタンやファスナーの操作の困難さは、日常生活動作の自立に影響を与えます。はさみの使用が苦手な場合は、両手の協調性の発達に課題がある可能性があります。

対人関係・コミュニケーションについて、「言語面」では、言葉の発達の遅れは、理解力や表現力の発達に影響を与えます。会話の継続が難しい場合は、対話の双方向性の理解に課題がある可能性があります。質問の意図理解の困難さは、言語理解の発達と関連します。自分の気持ちの言語表現の困難さは、感情認識や表現力の発達に関係します。

「社会性」では、友達との遊びの困難さは、社会的相互作用の発達に影響を与えます。順番を待てないことは、自己コントロールの発達と関連します。集団活動への参加困難は、社会的ルールの理解や適応に課題がある可能性を示します。他児とのトラブルの多さは、社会的スキルの発達に課題がある可能性があります。

②感覚プロフィール評価（家庭環境版）

視覚的な反応について、「明るさへの反応」では、急な明るさの変化に対する敏感さは、視覚情報処理の特性を示します。特定の光への嫌悪感は、感覚過敏の一症状として現れることがあります。暗がりへの極端な恐怖は、視覚情報の処理や心理的な要因と関連する可能性があります。

「動きへの反応」では、動くものへの過度な注目は、視覚的な注意の特性を示します。画面の動きへの没頭は、視覚的な刺激への反応特性を表します。周囲の動きによる気の散りやすさは、注意の制御に関する課題を示唆することがあります。

聴覚的な反応について、「音への敏感さ」では、特定の音への極端な嫌悪感は、聴覚過敏の特徴を示します。突然の音への過剰反応は、聴覚情報処理の特性を反映します。生活音が気になる様子は、聴覚フィルターの機能に関連する可能性があります。

「音の認識」では、名前を呼ばれても気づかない様子は、聴覚的注意の特性を示します。特定の音のみへの反応は、聴覚情報の選択的処理を反映します。音の方向の認識困難は、空間における音の定位に関する課題を示唆します。

触覚的な反応について、「触覚防衛」では、特定の触感への嫌悪は、触覚過敏の特徴を示します。服の縫い目への過敏さは、触覚情報処理の特性を反映します。スキンシップの回避は、対人関係における触覚的な課題を示唆することがあります。

「触覚鈍麻」では、痛みへの鈍感さは、触覚情報処理の特性を示します。温度変化への気づきにくさは、温度感覚の処理に関する特徴を反映します。汚れへの無関心は、身体感覚の認識に関する特性を示すことがあります。

前庭感覚の反応について、「動きへの過敏さ」では、高所への極端な恐怖は、前庭感覚の処理特性を示します。揺れへの嫌悪感は、動きの知覚に関する特徴を反映します。回転動作への拒否は、前庭感覚の過敏性を示唆することがあります。

「動きの追求」では、常時の体の動きは、前庭感覚の刺激追求を示します。危険な動きへの志向は、感覚刺激の調整に関する特徴を反映します。回転動作への過度な好みは、前庭感覚の刺激追求行動として現れることがあります。

③兄弟関係評価

観察評価項目について、「相互作用の質」では、積極的な関わりの頻度は、兄弟間の関係性の強さを示します。ポジティブな交流の内容は、関係の質的な側面を反映します。葛藤場面での対処方法は、社会性の発達を示唆します。

「コミュニケーションパターン」では、言語的やりとりの特徴は、兄弟間の意思疎通の方法を示します。非言語的コミュニケーションは、感情の共有や理解の方法を反映します。感情表現の方法は、情緒的な交流の特徴を示します。

「役割関係」では、兄弟間の役割分担は、家族システムにおける位置づけを示します。依存と自立の程度は、発達段階における関係性を反映します。保護者の関与の必要性は、兄弟関係の安定性を示唆します。

評価方法について、「直接観察法」では、自由遊び場面での観察は、自然な関係性を把握する機会となります。課題場面での観察は、協力や競争の様子を反映します。日常生活場面の観察は、実際の相互作用を示します。

「保護者面接」では、兄弟関係の変遷は、発達に伴う関係性の変化を示します。現在の関係性の特徴は、直面している課題を反映します。保護者の関わり方は、家族システムの機能を示唆します。

④子どもの行動観察法

観察の基本姿勢について、「客観的な記録」では、具体的な行動の記録は、正確な評価の基礎となります。時間経過の記録は、行動の変化を把握する手がかりとなります。主観的解釈を避けることは、信頼性の高い観察を可能にします。

「文脈の把握」では、行動の前後関係の記録は、行動の意味を理解する助けとなります。環境要因の考慮は、行動の背景を理解する手がかりとなります。他者との関係性の観察は、社会的相互作用を把握する機会となります。

観察項目について、「活動への参加」では、活動の選択傾向は、興味や関心の方向性を示します。継続時間は、集中力や持続力を反映します。切り替えの様子は、適応力や柔軟性を示唆します。

「対人関係」では、大人との関わり方は、信頼関係の形成を示します。子どもとの関わり方は、社会性の発達を反映します。コミュニケーション方法は、対人的な表現力を示します。

「感情表現」では、表情の変化は、情緒的な反応を示します。声の調子は、感情状態を反映します。体の動きは、非言語的な表現を示唆します。

⑤適切な環境設定の方法

物理的環境について、「空間構成」では、活動目的に応じたコーナー設定は、活動の効果的な展開を支援します。移動動線の確保は、安全で円滑な活動を可能にします。適切な刺激量の調整は、集中力の維持を支援します。

「視覚的構造化」では、物の定位置の明確化は、環境の理解を促進します。スケジュールの視覚化は、時間の見通しを支援します。ルールの視覚的提示は、行動の理解と実行を促します。

時間的環境について、「活動の構造化」では、予測可能な日課の設定は、安心感を提供します。適切な活動時間の設定は、疲労の予防に役立ちます。休憩時間の確保は、活動の質を維持する助けとなります。

「転換期の支援」では、事前予告の実施は、心理的な準備を促します。視覚的手がかりの活用は、理解を助けます。段階的な切り替えは、スムーズな移行を支援します。

⑥効果的な声かけの具体例

基本的な声かけについて、「肯定的な表現」では、「～しよう」という誘いかけは、主体的な参加を促します。「～できたね」という承認は、自信の形成を支援します。「～があるよ」という情報提供は、選択を支援します。

「具体的な表現」では、「ゆっくり歩こう」という具体的な指示は、行動の理解を促進します。「手を洗ってからごはんだよ」という順序の提示は、見通しを持たせます。「積み木を箱に入れよう」という明確な指示は、行動の実行を支援します。

場面別の声かけについて、「活動の開始時」では、「始めの合図をするよ」という予告は、心の準備を促します。「準備はできた？」という確認は、主体性を尊重します。「一緒にやってみよう」という誘いかけは、安心感を提供します。

「困難場面」では、「手伝おうか？」という支援の提案は、適切な援助を可能にします。「どうしたらいいかな？」という問いかけは、考える機会を提供します。「少し休んでから続けよう」という提案は、無理のない活動を支援します。

「達成場面」では、「頑張ったね」という認めは、努力を評価します。「できるようになったね」という成長の認識は、自己効力感を高めます。「うれしいね」という共感、感情の共有を促進します。

移行支援プログラム

1. 移行に関する評価

本人・家族の希望する将来像 面談やアセスメントを通じて、児童と家族が描く将来の生活像を具体的に把握します。保育所や幼稚園への通園希望、就学後の学校生活への期待、地域での活動参加についての意向など、短期的な目標から長期的な展望まで丁寧に聞き取ります。特に家族の不安や懸念についても共有を促し、現実的な支援計画の立案につなげます。

現在の社会参加状況 児童の日常生活における社会参加の実態を評価します。地域の公園や商業施設の利用頻度、近隣の子どもたちとの交流機会、地域行事への参加経験などを具体的に確認します。また、社会参加時の本人の様子や周囲との関わり方、直面している課題なども含めて総合的に評価します。

地域資源の利用状況 児童が現在活用している、または今後活用可能な地域資源を把握します。地域の児童館、図書館、子育て支援センター、公園などの利用状況や、子育てサークル、地域のイベントへの参加状況を確認します。また、医療機関や療育機関など、専門的支援の利用状況も含めて評価します。

併行利用している施設との連携状況 保育所や幼稚園など、併行利用している施設との情報共有や連携の現状を評価します。定期的な連絡会議の実施状況、支援計画の共有体制、緊急時の連絡体制などを確認します。特に支援方針の一貫性や、各施設での児童の様子の違いなどに注目して評価を行います。

2.1 短期目標（3ヶ月）の社会性育成

児童の特性や発達段階に応じて、段階的な社会性の育成を目指します。まずは施設内での小集団活動（3-4人程度）から始め、徐々に参加人数を増やしていきます。活動を通じて、順番待ちや物の共有といった基本的なソーシャルスキルを習得します。また、他児との自然な関わりが生まれる場面を意図的に設定し、コミュニケーションの機会を増やしていきます。

2.1 短期目標（3ヶ月）の生活スキル向上

日常生活における基本的な習慣の確立を目指します。食事、排泄、着替えなどの基本的生活習慣の自立を支援しながら、場面や状況に応じた適切な行動の理解を促します。また、持ち物の管理や活動の準備など、基本的な自己管理能力の育成にも取り組みます。これらのスキルは、将来の社会生活における基盤となります。

2.2 中期目標（6ヶ月～1年）の地域社会との連携強化

地域社会との関わりを段階的に深めていきます。まずは地域の子育てサークルに定期的に参加し、同年代の子どもたちとの交流機会を設けます。次に児童館でのプログラムへの参加を進め、様々な年齢の子どもたちとの関わりを経験します。さらに、地域の季節行事や子ども会活動など、より広い社会との接点を増やしていきます。

2.2 中期目標（6ヶ月～1年）の併行利用施設との連携

支援の一貫性と効果を高めるため、併行利用施設との密接な連携を図ります。3ヶ月に1回の定期的な情報共有会議を実施し、児童の様子や支援の進捗状況を共有します。また、支援方針の統一を図り、各施設で一貫した関わり方ができるよう調整します。環境面では、児童の特性に応じた設備や道具の調整、活動空間の構造化などを協議し実施します。

地域支援・地域連携プログラム

アセスメント

■ 子どもと家族の状況把握

大分県における子どもの発達状況、家族構成、生活環境を詳細に把握します。発達健診結果や行動観察を通じて、運動、認知、言語、社会性、生活習慣の各領域における発達段階を評価。家族構成では、保護者の就労状況や家庭内での役割分担、子育てに関する価値観などを把握します。生活環境については、住居の状況、地域での交流の有無、利用可能な資源などを確認。現在利用している支援サービスや関係機関（医療機関、保育所、幼稚園、療育機関など）を把握し、それぞれのサービス内容や連携状況を把握します。

■ 関係機関との連携状況の確認

大分県内の保育所・学校との情報共有の頻度や内容を調査。定期的な連絡会議や個別面談の実施状況、支援に関する情報の共有方法などを確認します。医療機関や保健師との連携状況についても、情報共有の頻度や内容、緊急時の対応などを把握。大分県発達障害者支援センターや医療的ケア児支援センター、地域生活支援拠点など、他の支援機関との協力体制について、連携の目的や内容、役割分担などを確認します。これらの情報収集を通じて、関係機関との連携における課題や改善点を明確にします。

■ 支援ニーズの特定

子どもの発達支援に必要な具体的な介入を特定します。感覚統合の視点から、遊びを通じた運動機能の向上、認知課題の組み込み、自己調整能力の育成など、個別のニーズに合わせた支援内容を検討します。家族支援のニーズについては、育児不安の軽減、発達に関する知識の提供、地域資源の活用支援など、家族全体のニーズを把握し、具体的な支援計画を策定します。大分県内の地域資源（子育て支援センター、NPO法人、ボランティア団体など）の活用可能性を検討し、家族の状況やニーズに合わせた情報提供や紹介を行います。

支援内容

1. **保育所・学校との連携強化** 定期的な保育園等の訪問支援を行い、子どもの発達状況や支援内容について情報共有を図ります。保育所・学校の先生方に対し、感覚統合に基づいた支援方法や環境調整に関する相談援助を実施します。個別の教育支援計画作成に積極的に協力し、子どもの特性やニーズに合わせた具体的な支援目標や方法を提案します。大分県教育委員会との連携も視野に入れ、より専門的な支援体制を構築します。
2. **医療機関・保健師との連携** 児童の通う医療機関（小児科医、発達外来医など）があれば、そのクリニックとの間で、健康情報を共有し、支援方針の調整を行います。定期的なケース会議を3ヶ月に1回開催し、医師や保健師、関係機関との連携を強化します。健康管理や医療的ケアに関する助言を取得し、子どもの健康状態に配慮した支援を提供します。大分県内の医療機関情報を収集し、必要に応じて家族に紹介します。
3. **専門機関との協働** 大分県発達障害者支援センターとの連携を強化し、専門的なアドバイスや研修機会の提供を受けます。医療的ケア児支援センターとの連携（該当する場合）を通じて、医療的ケアに関する情報提供や支援体制の構築を行います。大分県内の地域生活支援拠点等との情報共有や支援の調整を行い、地域全体で子どもと家族を支える体制を構築します。
4. **障害福祉サービス事業所との連携** 相談支援事業所との定期的な情報交換を月1回行い、支援計画の進捗状況や課題について情報共有を図ります。児童が通う他の障害児通所支援事業所との支援内容の調整を行い、重複や矛盾のない効果的な支援を提供します。生活支援や発達支援における役割分担を明確化し、各事業所が専門性を活かした支援を提供できるようにします。
5. **家族支援の強化** 保護者向け学習会を2ヶ月に1回開催し、発達障害に関する知識や感覚統合療法の理解を深めます。家族の相談窓口を設置し、定期的な面談を実施することで、育児不安の軽減や情報提供を行います。大分県内の地域子育て支援サービス（ファミリーサポート、一時預かりなど）の情報提供を行い、家族の負担軽減を支援します。
6. **多職種連携会議の開催計画立案** 関係機関（保育所、学校、医療機関、相談支援事業所など）を交えたケース会議を6ヶ月に1回定期開催し、支援の進捗状況や課題について共有します。支援計画の見直しを行い、子どもの成長や家族のニーズに合わせて柔軟に調整します。大分県内の新たな地域資源を発掘し、関係機関との連携体制を構築します。